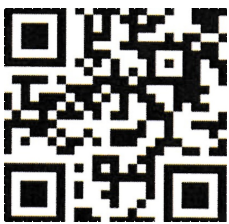


たかさご新聞

発行
高砂大学校同窓会
会長 島田裕正
〒920-0901
金沢市彦三町1-15-5
金沢中央公民館2F
TEL (076) 261-8101
FAX (076) 261-8149
(HP) <http://www.takasagoob.net>



QRコードで
ホームページへ

新年のご挨拶 高砂大学校同窓会

会長 島田裕正

新年あけましておめでと
うございます。

令和も4年、皆様方には
お元気で寅年をお迎えにな
られたと思います。

一昨年からコロナ禍、
デルタ、オミクロンで2年
が過ぎました。

コロナ禍は世界を覆いつく
したように思います。

身近には毎日、百人以上
の会員が活動する場所、彦
三館からは現在一人の感染
者も出ていません。

皆様方の「正しく恐れ」、
マスク、検温、3密回避等
をお守りの上の活動と、彦
三館の心使いの賜物と思い
ます。

高砂大学同窓会も4月か
ら大幅に役員が変更となり
ます。

現在の皆様は2月、3月
の事業（フレイル予防講座
等）と、新年度へのスムー
ズな移向をめざして鋭意努
力しております。

デルタ、オミクロンには
「正しく恐れ」で対処して
活動いたしましょう。

人間の身体は「使わなけ
れば退化」いたします。

「気を緩めず」に、家に
「閉じこもらず」に頑張っ
て人生を楽しみましょう。

明るい令和4年を願って
ご挨拶いたします。

赤い羽根共同募金 活動等の感謝状 受領について

高砂ボランティア会
会長 安田誠治

去る十二月八日、彦三館
において高砂大学校同窓会
及び高砂ボランティア会へ
石川県共同募金会会長から
赤い羽根共同募金活動に対
する感謝状を授与されまし
た。

高砂大学校同窓会と高砂
ボランティア会は、コロナ
禍の中今秋十月上旬に彦三
館前で同窓会員など彦三館
利用者を対象に赤い羽根共
同募金活動を展開し、六万
円余りの募金を共同募金会
に寄付しました。

この感謝状が金沢市共同募
金委員会國枝徳雄会長から
同窓会会長及びボランティ
ア会会長に伝達されました。

伝達後、國枝会長からは、
コロナ禍の中でボランティ
ア会の昭和六一年以来、三
十六年に亘る地道な活動と
最近の同窓会の参加による
活動の拡大に対する感謝の
言葉がありました。

【福祉バザー益金の一部と
年間を通じて収集した使用
済み切手を金沢市社会福祉
協議会へ寄付】

高砂ボランティア会は、
福祉バザーの益金の一部三
万円と金沢市中央公民館彦
三館、長町館で年間を通じ
て収集してきた使用済み切
手を金沢市社会福祉協議会
へ寄付致しました。

寄付は、高砂ボランティ
ア会蔵田武男副会長から金
沢市社会福祉協議会古一之
専務理事に手渡されました。

このことに対し福祉協議会
からは感謝状を授与されま
した。

同窓会の皆さんには、赤
い羽根共同募金やバザー用
品の寄付、福祉バザーでの
買い物、彦三館などに設置
した切手収集箱への切手投
函等のご協力をいただきあ
りがとうございました。

今後ともご協力、ご支援を
お願い致します。

30万人へのあいさつ 105期1組 西尾 欣一

私は、毎日通学路に立つて
児童の見守りを行っている。
私が出会う人数は、小学生、
中学生、社会人を合わせて
400人弱と見込まれるが、
これらの人に毎日挨拶の声か
けをしており、1日200人
（回）を下らないと考えてい
る。

1週間で約1000人、月
4000人、年間3万人以上。
これまで14年間続けているの
で、少なくとも延べ30万人以
上に声をかけてきたこととな
る。

その反応は、小学生は凡そ
半分程度であり、中学生で
70〜80％、これは女子高生が
よくない。社会人は90％以上
だが、若い女性等に問題があ
る。

ある時小学校で、600人
を超える全校児童に話をする
機会があった。

私は「社会へ出て周りの人
に認められていない人間は、す
べてきちんと挨拶ができる人
である。あなたたちも、社会
へ出るまでにきちんと挨拶が
できるよつに気をつけなさい。」
と話をした。ところがその
後もあまり変化がないので、
いささかがっかりした。

大雨・大風・大雪等気象条件
が厳しく、心細く感じる時は、
私たちに頼る気持ちが強く、
ほとんどの児童はきちんと
挨拶をするが、何もなけれ
ば大半は知らん顔で、これ
が今どきの子供の一般的な
傾向かと思っている。

しかしながら、私同様の
地道な活動を続けているボ
ランティアはあちこちに沢
山おり、長いスパンで見れ
ば、社会への浸透は進んで
ゆくものと考ええる。

30万人かける何100倍・
何1000倍という規模で、
全人口の3割を超えよう
としている高齢者に期待さ
れる役割は、次第に少なく
なってきた若人への育成
にあるのではないでしょ
うか。

令和3年11月24日、高砂
大学同窓会「協働プロジェ
クト会」会員19名で、石川
県の出前講座として「国立
工芸館」を見学してきまし
た。多目的室にて石川県文
化振興課金田直樹氏より、
1時間15分「国立工芸館」
の石川県への移転について
講義を受けました。

平成26年頃から始まった
東京一極集中の政府機関の
地方移転意見に始まり、平
成27年10月に「東京国立近
代美術館」の金沢移転が決
まりました。

鳴り物入りの地方移転も
この件だけが実現しました
。馳元文科大臣・その他
の国会議員に恵まれた地元
の真剣度の結晶であった。

「東京国立近代美術館工
芸館」の建物も、旧近衛師
団司令部庁舎だったし、「
国立工芸館」の建物も「第
九師団司令部庁舎（明治31
年建設）」と、「金沢偕行
社（明治42年建設）」を元
の姿に復元し、移築活用し
て渡り廊下で連結して美術
館仕様で整備したものであ
る。

国でも数少ない現存する旧
陸軍の、明治期の軍隊の建
物を見るだけでも文化的価
値を感じた。

周囲には「県立歴史博物
館」「県立美術館」「県立
能楽堂」「兼六園」「金沢
城公園」「金沢21世紀美術
館」等に隣接した絶好の文
化施設だ。地方の文化施設
より一段格が違う感じを受
けました。金沢って凄いな
ーと感激しました。

本日の展示品は八十二の
鷹と明治の工芸でした。
先ずエントランスへ入る
と正面に直径1・4 m高さ
3 mの陶磁作品が迎える
私は先ずその大きさに圧
倒され、“金沢の和菓子”
のモチーフを感じた。アメ
リカで活躍中の金子潤氏の
作品である。

本日のメインは八十二の
鷹である。薄暗い部屋で
各姿態に眼光鋭く、明治人
の気迫を感じられる作品群
でした。床に白線が引いて
あり、体のどの部分もこれ
を越えてはいけないと監視
員が見守っていた。

どうしても首だけ鷹に
惹のた。

つつい注意される。
1階展示場に我が郷土
大桑町出身の漆聖と称さ
れた松田権六さんの東京
自宅の「工房」がそのま
ま移築されていた。

作業机から絵筆などの
道具類・図案などが展示
してあったが、先ず、1
階の狭さに驚いた。

地元美術館ほど気軽に
というわけにはいかない
が、一度訪れると敷居が
全大分軽くなった。

これからも度々訪れる
ことになるだろう。

歴史探訪研修
に参加して
109組2組
藤島寛仁

コースは「鶴来コース」
で、近場でありながら新し
い発見もあり満足度満載と
言っても過言ではない。

最初に、白山開祖の泰澄
大師刻まれた8 mの大岩の
不動明王には驚かされた。
拝めば眼病が治ると言わ
れる不動明王像、心なしか
ウイंकしている様に感じ
られたのは初めてだろうか。

「牛石」等が紀元前95年
に創建された歴史ある神社
の金剣宮、パワースポット
と称される「黒石」や「義
経の腰掛あるが、丁度色づ
いた紅葉が綺麗だった。

金剣宮の裏道をたどり金
剣宮不動滝に至る。
清沢願得寺（鶴来別院）
山門に、加賀八家筆頭の本
多家上屋敷の門構えが移築
されていた。

火伏不動尊を巡って、横
町うらら館（町営案内所）
に至る。

古来より暴れ川として知ら
れた手取川を、安定して水
を得られる様に治水した枝
権兵衛の偉業となる「七ヶ
用水」を見学。高低落差5
〜6 m程の水路で発電をす
る等、先人の技術に感服す
る。

加賀馬場の白山信仰の本宮
である「白山比咩神社」を
訪れる。

表参道を上り、琵琶滝を
望みながら手水舎を経て、
先ず「荒御前神社」を参拝
する。

神門をくぐり、外拝殿を
参拝。

外拝殿前で記念撮影。
普段は入れないという「白
光苑」を通り「本殿」を拝
む。

「白山奥宮遙拝社」を通っ
て、「禊社・禊場」へと至
る。

「樹木公園」に秋の色を愛
でに訪れる。

既に落葉してしまった、
メタセコイア並木路、
樹木公園内の「日本庭園」
の紅葉、芝生広場。
（掲載上写真をカット致し
ました。）

楽しかったバス旅行
105期1組
宮口敬治

10月16日（火）朝「あ
ら久しぶり、元気やった」
の光景が、あちこちで見ら
れました。金沢駅観光バス
乗り場での一コマです。

高砂大学校同窓会主催の
日帰りのバス旅行 『次頁へ』

令和4年1月15日

たかさご新聞

3つのコースの中から小松コースに我が元氣会から、13名が参加いたしました。去年、今年とクラス会行事は、ほとんど無い中、2年振りに会った方もおり、なかなか話もつきぬ中、バスに乗り込みました。

バスの中で出発前の点呼が始まったが、なかなか自分たちグループの名前が読みに上げられず、「このバス1号車だよね。」と、仲間同士、怪訝な顔で見合った。なんと私達は、小松行きなのに鶴來行きの1号車に乗り込んだのだ。

最初の意気込みは、どこやら。人間最初に失敗するとそのあと何かにつけ慎重になるもの吟で、能天気な私には、良い刺激になった。今回の小松方面ツアーは、「那谷寺」が入っており、それに誘われ申し込んだのだ。

紅葉の美しさと、芭蕉の句の合吟は、絶対に記念になると思った。先生に「石山の石より白し秋の風」の譜入れをお願い出来なかつた、リーダーに相談した。入部2年目の私にとって、俳句の吟詠は目からうろこであった。先生の快話で練習にこぎ着けた。

ところが、「行き先変更」と掲示板が書きなおされた。何で？と、計画のどん挫を懸念した。しかし、見学予定に入っている「石切り場」でも合吟はいいねという代案が浮上した。

数回の練習を重ね、実施することになった。この日、リーダーがコンダクター（詩吟専用の楽器）を持参してくれた。足元に気を付けながら「観音下石切り場」の高台まで上った。垂直に切り立つ黄色凝灰岩の錦秋に彩られたパワースポットで、伴奏に合わせて

合吟した。5人の詠声が澄んだ空気の中、美しく黄金色に光る岩肌に吸い込まれていった。この石は、建築だけでなく仏像彫刻にも使われているという。「お世話になった先輩に届いたかな」「もっと調子を合わせてと言っているかな」などと、在りし日の厳しくも優しいお姿に手を合わせた。

『錦衣する仏の姿石に映え』 濤華 そのほかに、11月に公開されたばかりの「尾小屋鉦山跡」の見学、東京スカイツリーを越す700メートルもの深さの坑道、懐かしい自動車ポッポをバックに集合写真。ランチは、「ホテルKomatsuセントレ」での美味しい和食、名物の小松うどんも頂き完食。

「小松の杜」で庄倒された世界に誇る超大型無人タンプトラックや油圧ショベル。徳光ハイウェイショールで土産に買った圓八のあんころ餅。そして、本日のウォーキングは、8564歩也と。コロナ禍の中、企画運営に御尽力された方々、大変有難うございました。

歩の“歩のクラブ”では、例会は、小立野台から瑞雲寺、宝円寺、献珠院、高源院、椿原天満宮、善行寺、田井菅原神社、西光寺、広濟寺、常福寺、松山寺と十一ヶ所を巡りました。素晴らしい秋晴れの下、六十八名の参加があり、道路脇や家々の前の精魂込めた美しい花々を眺めながら二グループに分けて実施しました。

宝円寺は、前田家の菩提寺で徳屋宗達の墓もあり金沢の町が一望出来る場所がありました。常福寺は、駅前で三百年、当地で百年の歴史あるお寺で、御堂や隣接した建物の二階にある書家北方心泉の関係資料も拝観させて頂きました。

途中天神町緑地で休憩していると、昨年体調を崩されずと不参加だが今期も入会して下さっている宮口敬治さんが顔を出して下さり、椿原天満宮まで一緒に歩いて下さいました。お元気な姿に皆勇気と元気を頂き、又一緒に歩きました。

私は、家から歩いて木曽坂を上がりウォーキングで馬坂を下り最後八坂を上りましたが、コロナ禍の自粛年明けの体力の衰えを確実に感じました。何度も来られた方、こんな所知らなかったと言う方、いろいろですが、一人で歩くより

歩の“歩のクラブ”では、体力も、わずかですが、知識も着くので、これからも身体に合わせて参加して行きたいと思っています。鼻毛で守った加賀百万石歴史会自主研究発表会 歴史会 西尾欣一

10月21日（木）午前10時30分から彦三館視聴覚室で10月の発表会が行われました。この日は98期1組、田上稔さんが加賀百万石の礎を築いた前田利常について詳しく発表されました。その生涯は大変波乱に富むものであり、利家の四男として側室（千代保）から生まれながら藩主となる。

幕府の嫌疑に晒されながらも将軍秀忠の二女珠姫との婚儀。外惣構の構築等城の防備の強化を図るほか、大阪冬・夏の陣への出兵等多事多難に明け暮れました。人柄も幼少時から利発で、長じては鼻毛を伸ばして馬鹿な振りをした等のエピソードが伝えられている。治績としても、改作法を始めとした改革により藩の経済を豊かにした。寺院の創設と移動による町づくり、城・石垣・庭園の造成。九谷焼や時絵等美術工業の定着・発展。謡曲・文書収集・料理・茶・菓子等文化の発展等枚挙に暇がない。

説明する田上さんとても

歴史探訪研修会に参加して 高砂詩吟クラブ

113期1組 杉江友江

前日のボランティア大学校同窓会「兼園巡り」は、途中から雨になり早々に帰途についたが、この日11月16日は、朝から晴天に恵まれ、勇んでクラブの仲間とバスに乗り込んだ。

バスの中で出発前の点呼が始まったが、なかなか自分たちグループの名前が読みに上げられず、「このバス1号車だよね。」と、仲間同士、怪訝な顔で見合った。なんと私達は、小松行きなのに鶴來行きの1号車に乗り込んだのだ。

最初の意気込みは、どこやら。人間最初に失敗するとそのあと何かにつけ慎重になるもの吟で、能天気な私には、良い刺激になった。今回の小松方面ツアーは、「那谷寺」が入っており、それに誘われ申し込んだのだ。

紅葉の美しさと、芭蕉の句の合吟は、絶対に記念になると思った。先生に「石山の石より白し秋の風」の譜入れをお願い出来なかつた、リーダーに相談した。入部2年目の私にとって、俳句の吟詠は目からうろこであった。先生の快話で練習にこぎ着けた。

ところが、「行き先変更」と掲示板が書きなおされた。何で？と、計画のどん挫を懸念した。しかし、見学予定に入っている「石切り場」でも合吟はいいねという代案が浮上した。

数回の練習を重ね、実施することになった。この日、リーダーがコンダクター（詩吟専用の楽器）を持参してくれた。足元に気を付けながら「観音下石切り場」の高台まで上った。垂直に切り立つ黄色凝灰岩の錦秋に彩られたパワースポットで、伴奏に合わせて

合吟した。5人の詠声が澄んだ空気の中、美しく黄金色に光る岩肌に吸い込まれていった。この石は、建築だけでなく仏像彫刻にも使われているという。「お世話になった先輩に届いたかな」「もっと調子を合わせてと言っているかな」などと、在りし日の厳しくも優しいお姿に手を合わせた。

『錦衣する仏の姿石に映え』 濤華 そのほかに、11月に公開されたばかりの「尾小屋鉦山跡」の見学、東京スカイツリーを越す700メートルもの深さの坑道、懐かしい自動車ポッポをバックに集合写真。ランチは、「ホテルKomatsuセントレ」での美味しい和食、名物の小松うどんも頂き完食。

「小松の杜」で庄倒された世界に誇る超大型無人タンプトラックや油圧ショベル。徳光ハイウェイショールで土産に買った圓八のあんころ餅。そして、本日のウォーキングは、8564歩也と。コロナ禍の中、企画運営に御尽力された方々、大変有難うございました。

「クリスマスプレゼント」 高砂グリーン会 会長 奥野繁雄

人生72歳を間近に控え、サンタさんからの思いがけないプレゼントが、届きました。毎日の、日課の早朝に寝覚めスマホ・パソコンメールのチェック。パソコンメールに「免許証返納しましたが、来年度から、高砂グリーン会に入らせて下さい。」との事、会員の了解も取らずに、速了解の返信、事後承諾、会長が全責任を取るから、との事で了解を取り付けました。

小生の目指す、高砂大学校同窓会に加入されている方の健康寿命を延ばし、高砂グリーン会の目指すところ「目指す100」にピッタリ忠実な目頭が熱くなりました。

重ねて、スマホのSNSに、念願の女性の会員をどうしたら増やすことが出来るかなと思ひ悩んでいました。今年度で大学を終了しますから、高砂グリーン会に加入しますのでよろしくとの通知。1年前に、グループを立ち上げた時は、会員が集まらず、ポシャルのではと、脳裏をかすめました。加入頂いた会員皆様の協力、会長を盛り上げて同志を増やそうとの意気込みが、クリスマスプレゼントの形になったと思います。

会員皆様のおかげで念願の女性会員も2名、14名のグループになりました。



歴博尾張徳川家 至宝展

尾張徳川家 至宝展を見学して 107期1組 宇野澄子

11月10日10時30分、天候大荒れの寒い中、歴博の玄関に107期1組の18名が集まりました。塩崎主任学芸員の概略の説明があり見るべき展示のイメージを沸かせました。そして、前田家と江戸徳川家の間でやり取りした宝物が尾張徳川家に多数移っていることを教えて頂きました。

当時の前田家の文化、教

養の高さが見られました。刀剣類、弾跡が残る甲冑や姫君たちが輿入れに関する品々に吸い込まれるような感じを受けました。香木とは何やろうとか、源氏物語の奥深さに引きつけられて時間のたつのも忘れるくらいでした。

多少、名古屋の展示物とは、少なく感じましたが、貴重な物もあったと感じました。またの機会があればと思います。107期1組の行事で雨の日は、初めてでした。不思議なめぐりあわせでした。